

令和6年度 事業計画

社会福祉法人 広虫荘

特別養護老人ホーム 広虫荘

(短期入所・デイサービスセンターひろむし)

特別養護老人ホーム 和気広虫荘

(短期入所)

ケアハウス わけ

グループホームひろむし

社会福祉法人広虫荘 事業計画書

1. 経営の原則の遵守

社会福祉法人広虫荘は、法人定款第 3 条の規定に則り、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

2. 基本理念

「笑顔・喜び・支え合い」を念頭に置き、地域福祉の拠点となり、皆様から信頼され選ばれる施設を目指します。

3. 基本方針

- (1) 人としての尊厳を大切にし、利用者一人ひとりの個性を重んじ、笑顔でニーズに沿った個別のサービス提供に努めます。
- (2) 真心をもって創意工夫することでその時に満足してもらえる、質の高いサービスの提供に努めます。
- (3) 地域の多様な主体との連携・協働により、地域に密着した運営及び利用者、地域とのコミュニケーションを図るとともに、積極的な情報開示、情報提供等に努め、説明責任を果たします。

4. 社会福祉法人としての年間テーマ

- (1) 生産性の向上を図る
ー 生産性を高めることで、サービスの質向上や、経営の改善を図る ー
- (2) ご利用者様への対応（前年度より引き続き）
ただ生きることを支援するのではなく、「善く生きること」を支援するために、入所者様の日々の生活を見直す。
ー 口からおいしく食べれるように、楽しみを支援する ー
- (3) 危機管理体制の強化（前年度より引き続き）
 - 1) 虐待、人権、ハラスメント、事故、感染に対する意識を高めていく。
 - 2) B C P (事業継続計画)を基に、訓練の実施、見直し、整備。

5. 会議予定

理事会（5月・11月・3月）
評議員会（6月・12月・3月）
監事監査（5月）
施設運営会議（毎月）

6. 健全運営

- (1) 介護老人福祉施設（特養） 稼働率 95%
- (2) 軽費老人ホーム（ケアハウス） 稼働率 95%
- (3) 認知症対応型生活介護（グループホーム） 稼働率 95%
- (4) 通所介護（デイサービスセンター） 稼働率 55%

事業の取り組み

【特別養護老人ホーム広虫荘】

○生産性の向上

- ・既存の業務にとらわれることなく無駄やムラを無くすことを検討する為に、定期的に生産性向上委員会を開催する。その中で新たなテクノロジーの導入（眠りスキャン）を検討したり、介助員の活用、役割分担の見直しなどを上手く機能させる方策を検討する。

○医療連携

- ・定期的な医療連携会議において、実効性のある連携体制を構築するために、協力医療機関の要件3点について体制を確認する。

○認知症の理解を深める

- ・今年度より段階的に認知症の内外の研修を計画的に開始し認知症の理解を深めていきます。
 - ①認知症介護基礎研修修了者（2名）
 - ②認知症介護実践者研修修了者（6名）
 - ③認知症介護実践者リーダー研修修了者（0名）
 - ④認知症ケア専門士取得者（1名）
- ①～④に加え実践者リーダー研修を2名の介護職員が受講する。

○人材育成手段の確立を行う

- ・まずはOJTの統一化を図り、新採用者への導入及び既存の職員への周知に取り組む。
- ※技能実習生への完全個別対応と半年間のステップアッププログラムに基づいた技能伝達
⇒6月入職⇒12月から人員換算開始

○入居者様、職員の人権について理解を深める

- ・身体拘束廃止、高齢者虐待防止及びハラスメントに係る内外の研修を計画的に実施。

○BCPの見直し ～事業を停滞させないために～ ～入居者様とご家族様との絆～

- ・災害及び感染症に係る内外の研修を計画的に実施。特に感染症（コロナ）に関しては過剰な反応、対策から脱却させる見直しを行い、コロナ発生前の日常生活を取り戻す事を念頭におく（ご家族等、面会者の入館規制撤廃に向けた段階的な緩和）

【施設整備・器具備品購入計画】

- （1） 特別養護老人ホーム広虫荘
 - 1) ガス乾燥機（1台）の更新
 - 2) ベッド（5台）の更新
 - 3) 倉庫（備蓄品）

【特別養護老人ホーム和気広虫荘】

【ケアハウスわけ】

【グループホームひろむし】

具体的な取り組み（和気広虫荘・グループホームひろむし・ケアハウスわけ）

1. 生産性の向上を図る

介護現場の「ムリ・ムダ・ムラ」をなくし、業務の改善を図る

- ・職場環境の整備 : 定期的および必要に応じての職員との面談の実施
職員からの声を具体的に確認しながら改善を行う
- ・業務の明確化と役割分担
: 現在の業務内容の確認をし、見える化したうえ（各部署、各職種）で各部署
各職種間合同での確認、効率化を図る（役割分担と責任の所在等の認識）
- ・手順書の作成 : 現在の手順書を見直し確認をする
- ・記録・報告様式の工夫
: 介護・看護記録に関しては ICT 化をすすめている現在のソフトの活用と
継続（特養・グループホーム）
報告様式の重複の確認と一本化
- ・情報共有の工夫 : 記録の共有と確認の実施
報告・連絡・相談の徹底に関して確認を都度行うように徹底する
- ・OJT の仕組みづくり
: OJT の理解（やってみせる・説明する・やらせてみる・評価と指導を行う
の基本確認を含めて指導者の育成）
- ・理念・行動指針の徹底
: 理念の解釈と具体的内容の勉強会の実施（新人研修の内容に準じるものをベテ
ランを含めて全職種、全職員への繰り返し実施）

2. 自分の口からおいしく食べられるように、目で見ても楽しめる食事を提供する

（嚥下機能の低下により経口摂取が困難になっても口からおいしく食べられるように）

- ・摂食機能低下に応じた食彩や盛り付けの工夫
: 「なぜ口から食べることが難しくなったのか」をきちんと確認し状況に応じての対応をする
- ・目で見ても楽しめる食事を提供する
: 五感を意識しての食事の提供の仕方を心がける

3. 事業継続計画（自然災害、感染症）に沿った研修および訓練の実施をする

- ・事業継続計画を基に訓練の実施、見直し整備する
自然災害 : 現在の計画の確認と見直し（共通事項、特養、グループホーム・ケアハウスに
応じた内容を確認し連携できる計画と訓練の実施）備蓄品や非常食の確認と活用（必要
数の確認と実際に使えるための訓練）
- 感染症 : 実際の感染症対策の振り返りを参考にし、内容の確認と見直しをする
全職種、全職員への意識づけを研修と実施訓練で行う（参加型の研修・訓練
に実施内容）

4. 業務体制の強化を図る（体制等の見直し）

医療連携体制の強化 : 指針の整備（重度化した場合の対応に係わる指針を定める）

医療ニーズへの対応強化、医療機関との連携強化

認知症の対応力向上 : 認知症の行動・心理症状(BPSD)の予防および出現時に早期に対応するための取
組をする

認知症介護に係る専門的な研修を受講する（認知症介護実践者研修等）

【目標稼働率： 95%以上】

- (1) 特別養護老人ホーム和気広虫荘 (定員：100名)
- (2) ケアハウスわけ (定員： 30名)
- (3) グループホームひろむし (定員： 18名)

【施設整備・器具備品購入計画】

- (1) 特別養護老人ホーム和気広虫荘
 - 1) 温冷配膳車の更新 (1台)
 - 2) オシメ交換車の更新 (2台)
- (2) ケアハウスわけ
 - 1) 便器の取り替え (3年計画)

【デイサービスセンターひろむし】

○基準緩和型サービスの開始

- ・赤磐市熊山地域に無いサービスを開始し、地域住民の在宅生活継続の支援を行う。

○稼働率の向上

- ・処遇と運営の役割分担を明示し、計画書に基づき居宅支援事業所、市町村窓口への訪問を実施及び検証。

○利用者様、職員の人権について理解を深める

- ・身体拘束廃止、高齢者虐待防止及びハラスメントに係る内外の研修を計画的に実施。

○BCP の見直し ～事業を停滞させないために～

- ・災害及び感染症に係る内外の研修を計画的に実施。特に感染症（コロナ）に関しては過剰な反応、対策から脱却させる見直しを行い、コロナ発生前の日常生活を取り戻す事を念頭におく。